

令和 3 年度
「自己点検・自己評価」報告書

令和 4 年 5 月 30 日作成

学校法人 一川学園
専門学校 越生自動車大学校

はじめに

本校は昭和37年創立以来、50年以上に渡り工業系技術者教育を通じて多くの優秀な技術者を育成してまいりました。現在、一級自動車整備科・自動車整備科（二級課程）・情報システム科を設置し、本校の建学の精神である「行うことによって学ぶ」に則り、これまでに6500名を超える卒業生を自動車業界やIT業界送り出しています。

これからも本校は、社会から必要とされる高度な専門知識・専門技術と豊かな人間性を備えた技術者の育成に全力を尽くしてまいります。

1. 学校の教育目標

社会から必要とされる「優秀な技術者を育成する」ことを教育目標とする。
次のような技術者を育成する。

- (1) 高度な専門知識・専門技術を身に付けた技術者
- (2) 各種資格取得と豊かな人間性を身に付けた技術者
- (3) たゆまぬ努力で技術革新に対応できる技術者

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「伝統と革新」～3か年計画の1年目

- 1 今までの意識や価値観から、勇気と熱量をもって革新（進化）する。
- 2 熱意と愛情を持った「少人数グループ型職業教育」を実践する。
- 3 教育環境の整備と充実を図る。

その中で、本校は来年度に創立60周年を迎えることとなる。この60年間積み重ねて得た経験値やノウハウを基に、今後へ向けての方向性を示すべく、学園の中長期計画を立案している。そのテーマは、「伝統と革新」である。その第一歩が、教育内容のレベルアップ・質の担保である。次世代の教育の在り方を模索しIT教材や本校独自のカリキュラムや創作教材などを使用した、先進的で独自性のある、学生にとって分かり易く興味深い授業を研究し、行うこと。教育内容を向上させ、時代の変化に柔軟に対応したものとすることで安定した学生募集に繋げていくことを計画の柱とする。

(1) 2021年重点目標

- ①重点目標 募集目標学生数の100%確保
- ②重点目標 国家試験100%合格の達成
- ③重点目標 就職率100%の達成
- ④重点目標 全員進級、全員卒業

(2) 2020年度重点方針

1) 重点方針1 教育内容のレベルアップ・質の担保

本校の建学の精神「行うことによって学ぶ」に基き、学生たちが満足する授業を展開していく。誠実で豊かな人間性を備えて社会から必要とされる優秀な技術者を育成する。

また、教育の質の担保として高等教育の無償化対象校基準をクリアし、職業実践専門課程への認可を目指した教育展開を行っていく。

※ 今年度の具体的な取り組み

①教育内容の充実と教育設備・施設の充実を図る教育計画の立案と実施

②高等教育無償化基準、職業実践専門課程認可基準を満たす教育展開

③機関要件を整える

① シラバスの作成と運用

② カリキュラム見直し

③ 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の設置

④企業後援会との連携強化

・企業インターンシップの継続

・一級課程2年生の校外実習教科

・外部講師による出張授業等の実施

・企業との意見交換の実施

・学生募集活動・クラブ活動への支援

2) 重点方針2 「誠実」「挑戦」「感謝」を柱とした豊かな人間性教育の徹底

社会人として必要な、挨拶・身だしなみ・礼儀・マナー等のコミュニケーション能力の向上を図り、合わせて「誠実」「挑戦」「感謝」など人間として必要とする考えを芽生えさせる学生指導を展開する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界の ニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課 題

企業が求める自動車整備専門学校の卒業生に対するニーズも時代と共に変化している。常に企業側のニーズを的確に把握して専門教育を実施していかなければならない。

② 今後の改善方策

卒業生の追跡調査を実施し、企業ニーズの実態把握に努める。

③ 記事項

卒業生追跡調査の継続、企業後援会入会企業27社に対しアンケート形式で実施する。このアンケートの目的は、卒業の実態を把握し企業への定着率を上げると共に、企業のニーズを的確に捉え教育の改善を図るものとしている。

企業からの要望事項（前回調査）

- ・元気に挨拶ができて会話ができる人、社会人としてのモラルのある人材育成をお願いします。
- ・専門知識・専門技術はベーシックで良い、「元気で覇気のあり、嘘をつかない人材がほしい」
- ・自動車をもっと好きなる様な学生を育成して欲しい。
- ・協調性と向上心を磨いて欲しい
- ・安全意識、挨拶と笑顔、整備資料の読解力は欠かせない。自ら学ぶ姿勢のある人材育成が重要です。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

教育活動に関する情報公開は、シラバス、カリキュラム、就職実績、資格取得状況などを開示することが出来た。今年度中にも開示できるものは順次開示していく。

② 今後の改善方策

教育活動に関する情報を解り易くまとめ、2019年度より公開した。高等教育無償化制度導入に伴い、機関対象校となる基準を満たしていく。

また、職業実践専門課程への認可に向け、2018年度において学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を設置した。

情報システム等による業務の効率化を図るため、平成29年度に学生管理システムを導入した。これにより、保護者の方が成績・出席状況などをリアルタイムで検索できるようになった。

③ 記事項

2020年度において人事・給与に関する規定の見直し、新賃金制度を導入した。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1

・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

2級課程では、企業との連携による授業を実務実習と言う科目に設定した。これにより計画的に連携授業が展開され教育内容が向上した。1級整備士を取得している教員を増やし、教員の質の向上が課題である。入学生の基礎学力不足が専門教育を展開して行く上で大きな課題となっている。

② 今後の改善方策

2級課程における企業との連携授業は、職業実践専門課程による企業からの意見を取り入れ実践する。また、教員の新技术等の知識・技術修得のため企業の方に研修を依頼する。
1級課程の教員の質の向上のため、各種資格取得を支援する。
基礎学力不足の学生については、1年生前期の毎週1回基礎学力向上対策授業を実施しているが、なかなか全ての学生を一定水準まで引き上げることは難しい状況である。今後1年後期も実施に向け検討する。

③ 記事項

・企業と連携した授業

- ・関東マツダ「春のマツダセミナー」自動車整備科1年生全員
- ・東日本三菱自動車販売（株）「EV自動車」技術講習会
- ・埼玉ダイハツ「スマートアシスト」先進技術講習会
- ・埼玉スバル「アイサイト」先進技術講習会
- ・ネットヨタ東埼玉「AR用いた専門技術講習会」
- ・日産プリンス埼玉「日産リーフ」EV車技術講習会

・企業と連携したインターンシップ

一級自動車整備科1年生全員、自動車整備科1年生全員対象に実施した。
一級自動車整備科二年生の体験実習は、予定どおり実施できた。
一級自動車整備科1年生の企業見学実施（レクサス川越店）

・教員研修

いすゞ自動車教員研修 日野自動車教員研修 株式会社マツダ教員研修参加

・教員の授業公開の実施

本校では教員の解りやすい授業と資質向上のため、年2回授業公開を実施している。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の 改善に活用されているか	4 ③ 2 1

①課題

2級課程の卒業生に対し社会的な評価については、全員の把握はできていない。また、退学者の傾向としては、目的意識の欠如や学力不足及び出席不良が多く、今後早急な対応を考える必要がある。就職率は、ここ数年整備士不足から就職率100%で推移している。内定時期が1年次2月・3月頃に前倒しになり、学生の勉学意識が低下している。

国家試験合格率は、2級課程の2種目（ガソリン・ジーゼル）とも、1名不合格となり3年連続100%合格は達成できなかった。今後も100%合格が維持できるよう努める。1級課程においては、合格率を向上させることが出来ず、不合格者の原因を検証し早急な対策を講じる必要がある。不合格者の主な原因は、勉強不足も去ることながら、問題が過去問と違った形式で出題された場合、応用力が効かず苦戦しているが、今年度は全国平均を上回る66.6%の合格率を上げることができた。

令和3年度実績 2級課程 95.7% 1級課程 66.6%（令和4年3月20日実施）

退学者は、一級自動車整備科0名、自動車整備科5名、情報システム科0名であり、重点目標④全員進級、全員卒業とはならなかったが、退学者5名中3名は休学者である。退学率は、8.3%となる。

③ 後の改善方策

2級課程の卒業生に対しては、アンケート形式で現状の把握をする必要がある。退学者の対応としては、早期の段階で学力不足の学生に対し基礎学力の勉強をする時間を作り、補習を行う必要がある。また、出席不良の学生には、面談と保護者との連携により早期の段階で把握し、注意を促す必要がある。国家試験対策としては、一人ひとりの学生の能力・意欲に応じたきめ細かい指導に徹する。

また、各人の過去問題成績等を長期に渡りデータ化し、不得意科目を洗い出し、個人別国家試験対策

を実施して行く。合わせて、国家試験対策計画を7月末までに作成し、すべての教員がその内容を共有し100%合格へ導く。

③記事項

卒業生の離職を一人でも防ぐため、追跡調査を実施した。令和元年度の卒業を対象に19名の調査を実施したが、離職者は1名であった。合わせて企業ニーズを把握するため、専門知識・専門技術そして人間性教育についてアンケートも実施した。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

生活困窮家庭への学費減免等の援助について検討を要する。2020年度より高等教育無償化がスタートしたが、本校も機関対象校になることができた。

② 今後の改善方策

学費減免制度創設に向け準備作業に入る。就職先企業が独自の奨学金制度を創設し、人材を確保したい動きが活発である。就職活動と合わせ学生達に周知し、該当する学生には企業奨学金利用を促していく。保護者との連携強化としては、学校関係者評価委員に在学生の保護者に就任していただき、保護者からの生の声を教育活動に反映していきたい。

③特記事項

年2回保護者の方に授業公開を実施し、同時に懇談会を開催している。
奨学金利用学生の学費納付は、年3期の納付でなく月単位の納付制度を導入している。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・学内外の学習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

自動車整備科の実習用教材について、本校では毎年新規購入し設備の充実に取り組んでいるが、高額になる教材もあるため単年度での整備には限界がある。
2級課程の海外研修では、限られた予算内での米国研修となるが、近年燃油サーチャージが高騰しているため今後検討を必要とされる。

② 今後の改善方策

本校では、2022年に学園創立60周年を迎え、記念事業として教育環境の全面的な見直しを計画している。2020年度より、管理棟・学科棟の新築工事が着工された。2021年3月に本校舎が完成し学科教室の環境が向上した。次年度には実習棟も建設予定であり、完成後の2022年度には教育環境が一新される。
2級課程の海外研修では、限られた予算内であるので今後研修先の変更も検討する。

③ 特記事項

防災体制 年2回避難消火訓練実施している。（地震発生による火災を想定した避難訓練）
海外研修 新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4 ③ 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

イ 3年連続入学者の減少に歯止めがかけられた。
 ロ 本校の近隣高等学校との信頼関係構築を強固なものとする。
 ハ 埼玉県県北地区・秩父地区からの入学生を増加させる。
 ニ 県外の高等学校に対する募集対策
 ホ 留学生の入学者ゼロ

② 今後の改善方策

入学者減少から歯止めをかけ、本校の姉妹校と外部校からの入学者を増加できた。よって、まず姉妹校から安定的な入学者確保を目指し、合わせて本校近隣校からの入学者増とする募集活動を展開していく。また、来年度には4年制の1級自動車整備科を新設する予定である。
 今年度は、以下のような募集戦略を実施する。
 イ 入学実績高校へ学生近況報告書持参して訪問する。
 ロ 資格取得実績・就職実績のタイムリーな報告を実施する。
 ハ 本校の教育特色をしっかりと打ち出すツールを作成する。
 ニ 自動車整備士の魅力を高校生にアピールするため、今年度は自力で特色ある「オープンキャンパス」を夏休み期間中に実施する計画である。

③ 特記事項

入学生は、3年連続して減少に転じてしまった入学生を2年連続で増加することができた。毎年募集活動は先が見えず厳しい環境であるが、令和3年度は対前年比2名増やすことができました。最終的には、教育内容をしっかりと構築し、入学生全員が資格取得と就職と言う目的を達成出来るよう、教職員が一丸となって努力することが大切であると考えます。
 2022年度の入学者実績は、前年対比2名増となった。
 1級自動車整備科 11名 2級自動車整備科 24名 1級自動車整備専攻科 4名 合計 39名
 令和4年度に設置した4年制の1級自動車整備科(入学定員20名)の第1期生11名が入学した。
 今後は、この学科を中心に安定した入学者確保に努めていきたい。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

財務情報の公開に向け、体制を整備する。

② 今後の改善方策

高等教育の無償化対象校としての機関要件、職業実践専門課程の認可の認定要件でもある財務状況公開した。学園の中期運営計画を立案し、持続可能な収支計画を作成する。

③ 記事項

2022年度に本校は創立60周年を迎える。現在記念事業の計画案を策定中であるが、校舎等大きな設備投資も含まれるため、そのための財源確保と学園存続の損益計画を作成している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題

学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の設置と両委員会を開催する。
令和2年度自己点検・自己評価を公開した。

② 今後の改善方策

平成3年度から学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を設置し両委員会を開催した。
令和3年度学校関係者評価委員会 令和3年7月21日（水）、12月24日（金）開催
令和3年度教育課程編成委員会 令和3年7月21日（水）、12月24日（金）開催
合わせて、両委員会の議事録の情報公開も実施した。

③ 特記事項

令和4年度の学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の開催予定
第1回 令和4年 7月27日（水） 両委員会開催
第2回 令和4年 12月24日（金） 両委員会開催

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

学生のボランティア活動は、授業時間の関係でなかなか実施できていない。
今後地域に対する貢献をどのように取り組んでいくのか検討を要する。

② 今後の改善方策

地域貢献・学生ボランティア活動・公開講座を積極的に取り組む。
「OAC夏フェス」は、コロナ禍の影響で中止とした。

③ 特記事項

越生町立越生中学校インターンシップ受け入れ（コロナ禍の影響により中止）
地域貢献活動・・・越生自大地域クリーン活動（平成24年度から継続実施）
活動を令和3年度に埼玉県「彩の国ロードサポート活動」として認可される
越生町産業祭・越生町こどもフェスティバルへの協賛（平成27年度より実施）
越生町商工会・・・パソコン教室、フォークリフト免許取得講座開催（平成25年度から継続実施）

越生町「子ども大学」も中止となった。

過去の実績・・・・・・・・平成 29 年 8 月 21 日 自動車講座開催（自動車講座担当）

テーマ・・・電気自動車とハイブリッド自動車

平成 30 年 8 月 21 日 「クルマはなぜ動くのか？」開催

4. 重点目標達成についての評価及び総合的な評価結果

本校は、平成 24 年に創立 50 周年の節目を迎えた。この創立 50 周年を期に「新生越生自動車対応し社会から必要される専門学校として運営してきた。一度は学生数も増加し復活の兆しが見えたが、完全復活とはならなかった。このように、自動車整備学校を取り巻く社会環境は依然として厳しい状況である。しかし、来年度創立 60 周年を迎える中、入学者数もここ 2 年連続して増加し、学園存続への明るい展望が開けてきた。

本校は、2022 年度に創立 60 周年となる。この大きな節目を契機として学校存続基盤の整備を実施した。新校舎（学科管理棟）及び新実習棟が完成した。これにより、本校の教育環境は、見違えるように充実することができた。これに合わせて、教育の質の向上を図っていかなければならない、教職員一丸となって取り組んでいく所存である。

(1) 令和 3 年度越生自動車大学校運営計画の骨子について

①基本的な専門知識・専門技術の修得

イ 個人指導の充実・・・教員 1 名で 15 名の学生を指導する（実習授業）

ロ 教材車両・単体教材は 3 人で 1 台を確保する

二 毎日の授業を大切に（毎日実習授業を実施）

自動車整備科 2 年間の総授業時間 専門科目 2,032 時間 一般教養 160 時間

合計 2,192 時間となっている。

②豊かな人間性教育の徹底

イ 挨拶の励行・・・立ち止まって挨拶を校内で実践

ロ 「身だしなみ」を整える・・・スーツデーの実施

ハ 越生自大クリーンデーの新設・・・地域貢献活動

③学生募集計画の立案

イ 募集目標の設定

ロ 具体的な募集活動

・高校生とダイレクトに接触できる進学説明会への参加

・体験入学・見学会のリニューアル

・効果的高等学校訪問活動の実施

④教育計画の見直しと新規立案

年間授業計画・国家試験対策計画・就職計画・人間性教育計画

⑤教育設備・施設充実計画

教育機器・教材車両・実習教室改修計画

⑥本校企業後援会組織との連携強化

- ・企業後援会奨学生の採用
- ・奨学金の給付
- ・教育機器購入援助
- ・自動車整備科1年次生の企業研修（インターンシップ）実施
- ・校内技術コンクール開催
- ・企業の出前授業の開催
- ・教育活動に対する意見交換会の開催
- ・学生募集活動における企業連携

（2）令和3年度重点目標達成について評価

①国家試験100%を目指す

令和3年度一級自動車整備科卒業生3名の合格率は、66.6%となり2名が合格した。目標とする100%合格には届いていない。教員の意識改革や今年度のテーマである革新的な手法を取り入れ抜本的に改革していかなければ100%の合格率は達成できないと考えています。学生の試験に対するモチベーションも同時に高めていく指導が必要となる。

自動車整備科（2級課程）においては、卒業生23名で惜しくも、2種目の100%合格にはならなかった。2級ガソリン・ディーゼルとも、1名不合格となり、合格率は95.7%となった。国家資格の100%合格は、2022年度に創立60周年を迎えることを考えると、必ず成し遂げるべき目標である。そして、安定的に100%合格を継続出来るよう教育の質を担保していかなければならない。

情報システム科については、J検（情報処理活用能力検定）3級は、合格率100.0%となり徐々に全員取得できた。但、情報システム科の最終目標であるITパスポート資格取得については、受験レベルまで学生達を導くことが出来なかった。今後の課題事項となっている。尚、情報システム科は降募集停止になっていますが、今年度1名の卒業生を送り出し、2023年度に廃止となる。

②就職率100%を目指す

一級自動車整備科3名については、全員が第一希望の企業に就職することが出来た。総じて1級課程の学生は早期に就職が決まる傾向あり、企業側の求人意欲の高さを感じている。

自動車整備科の就職希望者19名は全員就職できた。また、1級課程進学者は4名となった。自動車整備科の学生全員が、希望の進路を決定することが出来た。

情報システム科の卒業生1名は、卒業後4月に就職できた。

③募集目標学生の確保

創立50周年から学生募集活動を見直し、様々な広報手段を用いて教職員一丸となった取り組みを実施した。今後、安定的に学生を確保し、生き残れる学園を目指し創立60周年記念事業として校舎・実習棟を新築した。若者のクルマ離れ等など募集環境は厳しい状況であるが、これで学生確保の大きな武器は揃えることができたと考えてい

る。さらに教職員一丸となって教育の質を向上させ、地域から必要とされる専門学校を目指していきたい。

※学科別入学者数（令和元年度～令和4年度）

・1級自動車整備科（4年制）新設 → 4年度 11名

・2級自動車整備科（旧自動車整備科）

元年度 25名 → 2年度 28名 → 3年度 33名 → 4年度 24名

・1級自動車整備専攻科

元年度 5名 → 2年度 3名 → 3年度 7名 → 4年度 4名

上記のように推移しているが、令和4年度から修業年限4年の1級自動車整備科をスタートした。今後は、この学科を中心として安定的な学園運営に努めていきたい。

新規入学者は3年連続で増加傾向となっているが、もう一段ギアを上げ目標とする入学者数を獲得していきたい。

（3）総合的な評価結果

創立50周年（平成24年度）を機に「新生越生自動車大学校」として生まれ変わり、教育内容や学生募集活動を抜本的に見直し地域社会から必要とされる専門学校となるべく教職員一丸になり努力をして来た。令和3年度は、入学者を前年比で2名増加できた。お陰様で近隣高等学校との信頼関係は、着実に構築できており、今後は、そのエリアをどうすれば拡大できるのかが課題となっている。その為、本校の誠実な学校運営並びに教育の特色と実績を多くの高校生・保護者の方々に伝えていきたい。尚、次年度の学生募集活動は既に開始されており、途中経過ではあるがグループ校からの入学者も例年並みには確保できることが見込まれ、近隣校からも本校を希望する生がいて高校の先生からの情報もあるが、目標とする入学者を確保する厳しさは変わらないと考えている。

教育環境の整備では、管理学科棟の新校舎と実習棟が完成した。特に新実習棟は、最新設備が整い、特定整備工場の認証も取ることができた。また、車両購入・整備機器の補充し施設設備の充実を継続的に図っている。教育内容の向上を狙い、総授業時間の60%の実習授業を、15人程度の学生に1名の教員が授業を行う徹底した少人数での実習授業を行うこと基本とした。その結果、本校の教育特色である「少人数グループ制教育」に大多数の学生達は満足し、意欲的に勉学に励んでいる。また、自動車整備業界との連携を強化し、本校独自の授業として「実務実習」（1級自動車整備科と2級自動車整備科両科の一年生全員対象とする）も実施することが出来た。

尚、令和4年度には1級自動車整備科（修業年限4年）を設置した。第1期生11名が入学し勉学に励んでいる。

結びに、今後乗り越えて行かなければならない多くの課題もあり、更なる努力が必要である。特に、高等教育無償化対象校の機関要件を満たす学園運営を継続し、職業実践専門課程への認可も早急に取得していかなければならない。

まずは、令和4年度の重点目標を達成し、本校が地域社会から必要とされ、生き残っていくための強固な運営基盤の構築を目指し総合評価結果といたします。